

対象校No.

注4

学校コード

注3

設置年度

令和

5年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

健康科学大学

健康科学部

リハビリテーション学科

理学療法学コース、作業療法学コース

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人健康科学大学

令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 教務部教務課

職名・氏名

電話番号

(夜間) -

e-mail

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、該当番号を記載してください。

目次

健康科学部

＜リハビリテーション学科 理学療法学コース、作業療法学コース＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	11
3. 施設・設備の整備状況、経費	31
4. 既設大学等の状況	32
5. 教員組織の状況	33
6. 附帯事項等に対する履行状況等	48
7. その他全般的事項	49

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 健康科学大学

(2) 大学名

健康科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒401-0380

山梨県南都留郡富士河口湖町小立7187

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ササモト ノリオ) 笹本 憲男 (令和3年4月)		
学長	(ササモト ノリオ) 笹本 憲男 (令和3年4月)	(カシモト サトシ) 榎本 温 (令和6年4月)	任期満了に伴う学長の交代 令和6年4月1日 (6)
学部長	(タカムラ ヒロシ) 高村 浩司 (令和3年4月)		
学科長等	(カスヤマ タツヤ) 粕山 達也 (令和5年4月)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。

(例) 令和6年度に報告済の内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、別ファイルにて提出してください。
 - 様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの5年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合には、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
 - 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 - 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
健康科学部 リハビリテーション学科 学士(一)	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	4 年	120 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	480 人		

- (注) 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - 学生募集停止を予定している場合は、「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	() []	() []	120 () []	() []	120 () []	() []	120 () []	() []	-	0.68 倍	-	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	146 () []	() []	137 () []	() []	146 () []	() []	春季入学以外 の入学時期と 入学定員内訳			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	143 () []	() []	134 () []	() []	144 () []	() []	0			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	143 () []	() []	134 () []	() []	139 () []	() []				
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	97 () []	() []	74 () []	() []	89 () []	() []				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	0.80		0.61		0.74					

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - 転入学生は記入しないでください。
 - []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 - 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 - 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - 「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	-	-	97	-	76	-	90	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(5)	(-)	(3)	(-)	
2年次			-	-	-	-	-	-	81	-	77	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(4)	(-)	
3年次					-	-	-	-	-	-	79	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4年次							-	-	-	-	-	-	
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	97	-	163	-	246	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(5)	(-)	(7)	(-)	

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和5年度	97 人	4 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	4 人	- 人	進路変更(1人)、その他(3人)
令和6年度	163 人	6 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	6 人	- 人	進路変更(2人)、学生個人の心身に関する事情(1人)、他学科への転学部学科(3人)
			令和6年度	0 人	- 人	
令和7年度	246 人	3 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	3 人	- 人	進路変更(2人)、除籍(1人)
			令和6年度	- 人	- 人	
			令和7年度	0 人	- 人	
合計		13 人		13 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例) ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{4}{101} = \boxed{3.96} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{6}{169} = \boxed{3.55} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{3}{249} = \boxed{1.2} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの5年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合に、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学科 学士(理学療法)	保健衛生学関係(リハビリテーション)	4年	80人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	320人		

- (注) 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 -	人 -	人 -	人 -	人 -	人 -	人 80	人 -	人 80	人 -	人 80	人 -	-	0.98倍	-	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	105	(-)	98	(-)	118	(-)	春季入学以外の入学時期と入学定員内訳			
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	103	(-)	95	(-)	117	(-)	0			
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	103	(-)	95	(-)	112	(-)				
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	66	(-)	47	(-)	74	(-)				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	0.82	-	0.58	-	0.92	-				

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	66 [-] (-)	- [-] (-)	48 [-] (2)	- [-] (-)	74 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	60 [-] (-)	- [-] (-)	48 [-] (1)	- [-] (-)	
3年次					- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	54 [-] (-)	- [-] (-)	
4年次							- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	66 [-] (-)	- [-] (-)	108 [-] (2)	- [-] (-)	176 [-] (4)	- [-] (-)	

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	66 人	1 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	1 人	0 人	進路変更(1人)
令和6年度	108 人	6 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	6 人	- 人	進路変更(2人)、学生個人の心身に関する事情(1人)、他学科への転学部学科(3人)
			令和6年度	- 人	- 人	
令和7年度	179 人	3 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	3 人	- 人	進路変更(2人)、除籍(1人)
			令和6年度	- 人	- 人	
			令和7年度	- 人	- 人	
合計		10 人		10 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例) ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{1}{67} = \boxed{1.49} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{6}{114} = \boxed{5.26} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{3}{182} = \boxed{1.64} \%$$

(注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの5年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合に、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学科 学士(作業療法)	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリ)	4年	40人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	160人	-	

- (注) 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	-	0.44倍	-	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	春季入学以外の入学時期と入学定員内訳			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	0			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []				
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	0.77	0.67	0.37									

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	-	-	31	-	30	-	15	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	(-)	
2年次			-	-	-	-	-	-	25	-	27	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	
3年次					-	-	-	-	-	-	28	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4年次							-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	31	-	55	-	70	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(-)	

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	31 人	3 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	3 人	- 人	その他(3人)
令和6年度	55 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
令和7年度	70 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	人	- 人	
			令和6年度	人	- 人	
			令和7年度	人	- 人	
合計		3 人		3 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{3}{34} = \boxed{8.82} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学コース>

(1) - ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1			2	1		4	兼3	
		基礎演習Ⅱ	1後	1			1	1		5	兼3	
		人権と法	1・2前		2						兼1	
		教育原理	1・2前		2		1				兼1	
		経済と経営	1・2後		2		1				兼1	
		現代医療史	1・2前		1						兼1	
		宗教学	1・2後		1		1				兼1	
		現代社会と倫理	1・2前		1		1				兼1	
		情報リテラシー	1前		1		1				兼1	
		基礎数学演習	1前		1						兼1	
		物理基礎	1前		1						兼1	
		化学基礎	1前		1						兼1	
		統計学	1後		2		1				兼1	
		心理学と心理的支援(心理学概論)	1・2前		1						兼1	
		人間学	1・2前		1		1				兼1	
		生命学	1・2後		1						兼2	
		比較行動学	1・2後		2		2				兼1	
		山梨の自然と文化・産業	1・2前		2		1				兼1	
		富士山と環境	1・2後		2		1				兼1	
		生活健康学	1・2前		2		2				兼1	
		スポーツの理論と実際	1・2前・後		1		1				兼1	
小計(21科目)			8	22	0	13	2	0	9	0	兼17	
総合基礎科目領域	人間基礎科目群	健康科学論	1通	1			3		1		兼3	
		発達心理学	1後		2						兼1	
		人間関係論	1前		1						兼1	
		コミュニケーション論	1・2後		1						兼1	
		世界の福祉	1・2前		2						兼1	
		点字の理論と実際	1・2前		2						兼1	
		手話の理論と実際	1・2前		2						兼1	
		異文化比較論	1・2前		1		2		1		兼1	
		共生学	1・2後		1						兼1	
		世界と対話	2通		2		2				兼1	
		地域連携の理論と実際	1・2後		2		1				兼1	
		ボランティア活動の実際	1・2通		1						兼1	
		リハビリテーション特別講義Ⅰ	1・2後		1		1		1		兼1	
		リハビリテーション特別講義Ⅱ	1・2後		1		1		1		兼1	
人間基礎科目群 小計(14科目)			2	18	0	8	0	4	0	兼16		
総合基礎科目領域	外国語科目群	英語Ⅰ-1	1前		1				1		兼1	
		英語Ⅰ-2	1後		1				1		兼1	
		英語Ⅱ-1	2前		1				1		兼1	
		英語Ⅱ-2	2後		1				1		兼1	
		英語 リーディング・ライティング	1・2後		1				1		兼1	
		英語 コミュニケーション	1・2前		1				1		兼1	
		英語 会話	1・2前・後		1				1		兼1	
		基礎韓国語	1・2前		1		1				兼1	
		基礎中国語	1・2前		1		1				兼1	
		はじめての韓国語会話	1・2後		1		1				兼1	
		はじめての中国語会話	1・2後		1		1				兼1	
外国語科目群 小計(11科目)			4	7	0	4	0	7	0	兼6		
総合基礎科目領域 小計(46科目)			14	47	0	25	2	0	20	0	兼39	
専門基礎科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1前		2		2				兼1	
		解剖学Ⅱ	1後		2		2				兼1	
		解剖学演習	1・2・3・4後		1		2		1		兼1	
		解剖学実習	1前		1		3				兼1	
		生理学	1前		2		1	1			兼1	
		生理学演習	1後		2		1	1			兼1	
		生理学実習	2前		1		1	1			兼1	
		運動学Ⅰ	1前		2				2		兼1	
		運動学Ⅱ	1後		2				2		兼1	
		運動学実習	2前		1				7		兼1	
		人間発達学	1後		2		2		1		兼1	
		病理学	1後		1		1				兼1	
		薬学	2後		1						兼1	
		栄養学	2後		2						兼1	
	公衆衛生学	1・2前		1						兼1		
	バイオメカニクス	2後		2		2		1		兼1		
	微生物学・免疫学	2・3後		2		1				兼1		
	基礎医学系 小計(17科目)			21	6	0	16	3	0	14	0	兼5
	専門基礎科目領域	臨床医学系	臨床医学総論	2前		1						兼1
			整形外科	2前		2						兼1
			神経内科学	2前		2						兼1
小児科学			2前		1						兼1	
内科学			2後		2						兼1	
精神医学			2前		2						兼1	
リハビリテーション医学			2後		1						兼1	
臨床医学系 小計(7科目)			11	0	0	0	0	0	0	兼7		

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手	
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1			2		2	2	兼2
		基礎演習Ⅱ	1後	1			2		3	1	兼2
		人権と法	1・2前		2						兼1
		教育原理	1・2前		2		1				兼1
		経済と経営	1・2後		2		1				兼1
		現代医療史	1・2前		1			1			兼1
		宗教学	1・2後		1		1				兼1
		現代社会と倫理	1・2前		1		1				兼1
		情報リテラシー	1前		1		1				兼1
		基礎数学演習	1前		1						兼1
		物理基礎	1前		1						兼1
		化学基礎	1前		1			1			兼1
		統計学	1後		2		1				兼1
		心理学と心理的支援(心理学概論)	1・2前		2						兼1
		人間学	1・2前		1				1		兼2
		生命学	1・2後		1						兼2
		比較行動学	1・2後		2		2				兼1
		山梨の自然と文化・産業	1・2前		2		1				兼1
		富士山と環境	1・2後		2		1				兼1
		生活健康学	1・2前		2		2		1		兼1
		日本語表現法	1前		1						兼1
スポーツの理論と実際	1・2前・後		1		1				兼1		
小計(22科目)			8	23	0	10	0	5	3	0	兼22
総合基礎科目領域	人間基礎科目群	健康科学論	1通	1			2		1	1	兼4
		発達心理学	1後		2						兼1
		人間関係論	1前		1						兼1
		コミュニケーション論	1・2後		1						兼1
		世界の福祉	1・2前		2						兼1
		点字の理論と実際	1・2前		2						兼1
		手話の理論と実際	1・2前		2						兼1
		異文化比較論	1・2前		1		2		1		兼2
		共生学	1・2後		1						兼1
		世界と対話	2通		2		2				兼1
		地域連携の理論と実際	1・2後		2		1				兼1
		ボランティア活動の実際	1・2通		1		1				兼1
		リハビリテーション特別講義Ⅰ	1・2後		1		1		1		兼1
		リハビリテーション特別講義Ⅱ	1・2後		1		1		1		兼1
人間基礎科目群 小計(14科目)			2	18	0	7	0	3	1	0	兼18
総合基礎科目領域	外国語科目群	英語Ⅰ-1	1前		1						兼2
		英語Ⅰ-2	1後		1						兼2
		英語Ⅱ-1	2前		1						兼2
		英語Ⅱ-2	2後		1						兼2
		英語 リーディング・ライティング	1・2後		1						兼2
		英語 コミュニケーション	1・2前		1						兼1
		英語 会話	1・2前・後		1						兼1
		英語 リーディング・ライティング(advanced)	1・2後		1						兼1
英語 コミュニケーション(advanced)	1・2前・後		1						兼1		
英語 会話(advanced)	1・2・3・4前・後		1						兼1		
外国語科目群 小計(8科目)			4	4	0	0	0	0	0	0	兼13
総合基礎科目領域 小計(44科目)			14	45	0	17	0	8	4	0	兼53
専門基礎科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1前		2		2				兼1
		解剖学Ⅱ	1後		2		3				兼1
		解剖学演習	1・2・3・4後		1		2		1		兼1
		解剖学実習	1前		1		3				兼1
		生理学	1前		2		1	1			兼1
		生理学演習	1後		2		1	1			兼1
		生理学実習	2前		1		1	1		1	2
		運動学Ⅰ	1前		2					1	1
		運動学Ⅱ	1後		2					1	1
		運動学実習	2前		1					1	1
		人間発達学	1後		2		2			1	1
		病理学	1後		1		1				
		薬学	2後		1						
		栄養学	2後		2				1		
公衆衛生学	1・2前		1								
バイオメカニクス	2後		2		2				1		
微生物学・免疫学	2・3後		2		1						
基礎医学系 小計(17科目)			21	6	0	16	0	4	8	0	兼2
専門基礎科目領域	臨床医学系	臨床医学総論	2前		1						兼1
		整形外科	2前		2			1			兼1
		神経内科学	2前		2						兼1
		小児科学	2前		1						兼1
		内科学	2後		2				1		兼1
		精神医学	2前		2						兼1
		リハビリテーション医学	2後		1				1		兼1
臨床医学系 小計(7科目)			11	0	0	4	0	0	0	0	兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置						兼任・兼担		
			必修	選択	教	准	講	助	手				
専門基礎科目群	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2	2								兼1	
	社会理論と社会システム	1-2前	2	2	1							兼1	
	社会保障論Ⅰ	1-2後	2	2	1							兼1	
	就労支援サービス	2前	2	2								兼1	
	精神保健学Ⅰ	2-3前	2	2								兼1	
	精神保健学Ⅱ	2-3後	2	2								兼1	
	高齢者福祉	2-3後	2	2								兼1	
	介護福祉	2-3後	2	2								兼1	
	障害者福祉	2-3後	2	2								兼1	
	福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	2	0	0	0	0	0	0	兼8
	臨床心理学	2前	2	2									兼1
	神経心理学	2後	2	2									兼1
	児童青年心理学	2-3前	2	2									兼1
障害者心理学	2-3後	2	2									兼1	
社会心理学	2-3後	2	2									兼1	
臨床人間学スタディーズ	2-3前	2	2				1					兼2	
臨床社会学スタディーズ	2-3後	2	2		1							兼2	
ジェンダースタディーズ	2-3前	1	1									兼3	
コミュニケーションスタディーズ	2-3後	1	1				1					兼2	
チーム医療演習	4後	1	1		1							兼2	
臨床人間学系 小計(10科目)	—	1	16	0	2	0	0	2	0	0	0	兼13	
専門基礎科目群 小計(43科目)	—	35	38	0	20	3	0	16	0	0	0	兼33	
専門科目領域	理学療法概論	1前	2	2	1								
	理学療法演習Ⅰ-1	1前	1	1	3	1		7					
	理学療法演習Ⅰ-2	1後	1	1	3	1		7					
	運動解剖学	2前	2	2	1								
	臨床運動学	2後	2	2	1	1							
	理学療法研究法	3前	1	1									
	卒業研究	4通	4	4	9	2	1	12					
	理学療法管理学	3前	2	2	1								
	理学療法評価学	2前	2	2			2						
	理学療法評価学実習	2後	1	1			2						
	理学療法演習Ⅱ-1	2前	1	1	3	1		7					
	理学療法演習Ⅱ-2	2後	1	1	3	1		7					
	運動器系理学療法評価学演習	2後	1	1	1	1		1					
	神経系理学療法評価学演習	2後	1	1	1	1		2					
	内部障害系理学療法評価学演習	2後	1	1			3						
	クリニカルリスニング	2後	1	1	1		2						
	理学療法治療学	2後	2	2	1								
	運動療法学	2後	2	2			1						
	理学療法演習Ⅲ	3後	1	1	3	1		7					
	運動器系理学療法実習	3前	1	1	1	1							
	神経系理学療法実習	3前	1	1	1		1						
	内部障害系理学療法実習	3前	1	1			2						
	日常生活活動学	2後	2	2			1						
	日常生活活動学実習	3前	1	1			2						
	義肢装具学	2後	2	2			1						
	義肢装具学実習	3前	1	1			3						
	物理療法学	3前	2	2			3						
	小児理学療法学	3前	2	2	1								
	理学療法演習Ⅳ	4通	1	1	3	1		7					
	理学療法特論	4後	2	2	5	1		7					
	マニュアルセラピー	3前	2	2	1								
	地域生活支援学	3前	2	2			1						
	高次脳機能障害治療学	3前	2	2	1								
スポーツリハビリテーション学	4後	2	2	1		1							
スポーツ医学	4後	1	1								兼1		
地域理学療法学	2後	2	2	1									
予防理学療法学	3前	1	1										
見学実習	1通	1	1	3	1		7						
地域理学療法学実習	2通	1	1	3	1		7						
検査測定実習	2後	1	1	3	1		7						
評価実習	3後	6	6	3	1		7						
総合臨床実習	4通	11	11	3	1		7						
専門科目群 小計(42科目)	—	64	13	0	61	19	1	125	0	0	0		
専門科目領域 小計(85科目)	—	99	51	0	81	22	1	141	0	0	0	兼1	
合計(131科目)	—	113	98	0	106	24	1	161	0	0	0	兼73	
卒業要件及び履修方法													
<p>本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p> <p><理学療法学コース> 総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上) 専門基礎科目105単位以上(必修35単位および選択必修1単位、 専門科目(必修63単位および自由選択5単位以上)</p>													

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置						兼任・兼担		
			必修	選択	教	准	講	助	手				
専門基礎科目群	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2	2								兼1	
	社会理論と社会システム	1-2前	2	2	1							兼1	
	社会保障論Ⅰ	1-2後	2	2	1							兼1	
	就労支援サービス	2前	2	2								兼1	
	精神保健学Ⅰ	2-3前	2	2								兼1	
	精神保健学Ⅱ	2-3後	2	2								兼1	
	高齢者福祉	2-3後	2	2								兼1	
	介護福祉	2-3後	2	2								兼1	
	障害者福祉	2-3後	2	2								兼1	
	福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	兼9
	臨床心理学	2前	2	2									兼1
	神経心理学	2後	2	2									兼1
	児童青年心理学	2-3前	2	2									兼1
障害者心理学	2-3後	2	2									兼1	
社会心理学	2-3後	2	2									兼1	
臨床人間学スタディーズ	2-3前	2	2				1	1				兼1	
臨床社会学スタディーズ	2-3後	2	2		1		1	1				兼2	
ジェンダースタディーズ	2-3前	1	1				1	1				兼2	
コミュニケーションスタディーズ	2-3後	1	1				1	1				兼3	
チーム医療演習	4後	1	1		2		2	2				兼4	
臨床人間学系 小計(10科目)	—	1	16	0	4	0	5	1	0	0	0	兼16	
専門基礎科目群 小計(43科目)	—	35	38	0	24	0	9	7	0	0	0	兼30	
専門科目領域	理学療法概論	1前	2	2	1								
	理学療法演習Ⅰ-1	1前	1	1	2	1		3	2				
	理学療法演習Ⅰ-2	1後	1	1	2	1		3	2				
	運動解剖学	2前	2	2	1								
	臨床運動学	2後	2	2	1	1							
	理学療法研究法	3前	1	1									
	卒業研究	4通	4	4	6	1	3	2					
	理学療法管理学	3前	2	2	1								
	理学療法評価学	2前	2	2	1		1	1	1				
	理学療法評価学実習	2後	1	1	2		2	1	1				
	理学療法演習Ⅱ-1	2前	1	1	2	1		3	2				
	理学療法演習Ⅱ-2	2後	1	1	2	1		3	2				
	運動器系理学療法評価学演習	2後	1	1	1	1		2	1				
	神経系理学療法評価学演習	2後	1	1	1	1		1	1				
	内部障害系理学療法評価学演習	2後	1	1			1					兼1	
	クリニカルリスニング	2後	1	1	3	1		3	2				
	理学療法治療学	2後	2	2	1								
	運動療法学	2後	2	2			1						
	理学療法演習Ⅲ	3後	1	1	3	1		3	2				
	運動器系理学療法実習	3前	1	1	1		1						
	神経系理学療法実習	3前	1	1	1								
	内部障害系理学療法実習	3前	1	1			1	1	1			兼1	
	日常生活活動学	2後	2	2			1						
	日常生活活動学実習	3前	1	1			1						
	義肢装具学	2後	2	2			1		1				
	義肢装具学実習	3前	1	1			1	1	2				
	物理療法学	3前	2	2	1		1		1				
	小児理学療法学	3前	2	2	1							兼1	
	理学療法演習Ⅳ	4通	1	1	3				1				
	理学療法特論	4後	2	2	3	1		3	2				
	マニュアルセラピー	3前	2	2	1								
	地域生活支援学	3前	2	2			1						
	高次脳機能障害治療学	3前	2	2	1								
スポーツリハビリテーション学	4後	2	2	1		1							
スポーツ医学	4後	1	1	1									
地域理学療法学	2後	2	2	1									
予防理学療法学	3前	1	1	2		1							
見学実習	1通	1	1	2	1		3	2					
地域理学療法学実習	2通	1	1	3	1		3	2					
検査測定実習	2後	1	1	3	1		3	2					
評価実習	3後	6	6	2	1		3	2					
総合臨床実習	4通	11	11	2	1		3	2					
専門科目群 小計(42科目)	—	64	13	0	55	18	56	37	0	0	0	兼2	
専門科目領域 小計(85科目)	—	99	51	0	79	18	65	44	0	0	0	兼32	
合計(129科目)	—	113	96	0	98	18	73	48	0	0	0	兼65	
卒業要件及び履修方法													

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教授	助手				
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1		2	1	2	2		兼2			
		基礎演習Ⅱ	1後	1		1	1	2	3		兼2			
		人権と法	1・2前		2						兼1			
		教育原理	1・2前		2						兼1			
		経済と経営	1・2後		2						兼1			
		現代医療史	1・2前		1		1				兼1			
		宗教学	1・2後		1						兼1			
		現代社会と倫理	1・2前		1						兼1			
		情報リテラシー	1前	1							兼1			
		基礎数学演習	1前	1							兼1			
		物理基礎	1前	1							兼1			
		化学基礎	1前	1							兼1			
		統計学	1後	2							兼1			
		心理学と心理的支援(心理学概論)	1・2前		2						兼1			
		人間学	1・2前		1		1				兼2			
		生命学	1・2後		1						兼2			
		比較行動学	1・2後		2						兼1			
		山梨の自然と文化・産業	1・2前		2		1				兼1			
		富士山と環境	1・2後		2		1				兼1			
		生活健康学	1・2前		2		1				兼1			
		スポーツの理論と実際	1・2前・後		1						兼1			
小計(21科目)	-	-	8	22	0	8	2	4	5	0	兼20			
総合基礎科目領域	人間基礎科目群	健康科学論	1通	1			2			2		兼4		
		発達心理学	1後		2							兼1		
		人間関係論	1前	1								兼2		
		コミュニケーション論	1・2後		1							兼1		
		世界の福祉	1・2前		2							兼1		
		点字の理論と実際	1・2前		2							兼1		
		手話の理論と実際	1・2前		2							兼1		
		異文化比較論	1・2前		1		1					兼3		
		共生学	1・2後		1							兼1		
		世界と対話	2通		2							兼1		
		地域連携の理論と実際	1・2後		2		1					兼1		
		ボランティア活動の実際	1・2通		1							兼1		
		リハビリテーション特別講義Ⅰ	1・2後		1		1					兼1		
		リハビリテーション特別講義Ⅱ	1・2後		1		1					兼1		
人間基礎科目群 小計(14科目)	-	-	2	18	0	6	0	2	2	0	兼20			
総合基礎科目領域	外国語科目群	英語Ⅰ-1	1前	1								兼2		
		英語Ⅰ-2	1後	1								兼2		
		英語Ⅱ-1	2前	1								兼2		
		英語Ⅱ-2	2後	1								兼2		
		英語リーディング・ライティング	1・2後		1							兼1		
		英語コミュニケーション	1・2前		1							兼1		
		英語会話	1・2前・後		1							兼1		
		基礎韓国語	1・2前		1		1					兼1		
		基礎中国語	1・2前		1		1					兼1		
		はじめての韓国語会話	1・2後		1		1					兼1		
		はじめての中国語会話	1・2後		1		1					兼1		
外国語科目群 小計(11科目)	-	-	4	7	0	4	0	0	0	0	兼11			
総合基礎科目領域 小計(46科目)	-	-	14	47	0	18	2	6	7	0	兼51			
専門基礎科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1前	2		2						兼1		
		解剖学Ⅱ	1後	2		2						兼1		
		解剖学演習	1・2・3・4後	1		2		1				兼1		
		解剖学実習	1前	1		3						兼1		
		生理学	1前	2		1	1					兼1		
		生理学演習	1後	2		1	1					兼1		
		生理学実習	2前	1		1	1					兼1		
		運動学Ⅰ	1前	2				1				兼1		
		運動学Ⅱ	1後	2					1			兼1		
		運動学実習	2前	1				2	4			兼1		
		人間発達学	1後	2			1					兼1		
		病理学	1後	1		1						兼1		
		薬学	2後	1								兼1		
		栄養学	2後	2			1					兼1		
		公衆衛生学	1・2前		1							兼1		
		バイオメカニクス	2後	2					1			兼1		
		微生物学・免疫学	2・3後	2		1						兼1		
		基礎医学系 小計(17科目)	-	-	21	6	0	16	3	4	7	0	兼4	
		専門基礎科目領域	臨床医学系	臨床医学総論	2前	1								兼1
				整形外科学	2前	2		1						兼1
				神経内科学	2前	2		1						兼1
小児科学	2前			1								兼1		
内科学	2後			2		1						兼1		
精神医学	2前			2								兼1		
リハビリテーション医学	2後			1		1						兼1		
臨床医学系 小計(7科目)	-	-	11	0	0	4	0	0	0	0	兼3			

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教授	助手				
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1		2	1	2	2		兼2			
		基礎演習Ⅱ	1後	1		1	1	2	3		兼2			
		人権と法	1・2前		2							兼1		
		教育原理	1・2前		2							兼1		
		経済と経営	1・2後		2							兼1		
		現代医療史	1・2前		1		1					兼1		
		宗教学	1・2後		1							兼1		
		現代社会と倫理	1・2前		1							兼1		
		情報リテラシー	1前	1								兼1		
		基礎数学演習	1前	1								兼1		
		物理基礎	1前	1								兼1		
		化学基礎	1前	1					1			兼1		
		統計学	1後	2								兼1		
		心理学と心理的支援(心理学概論)	1・2前		2							兼1		
		人間学	1・2前		1		1					兼2		
		生命学	1・2後		1							兼2		
		比較行動学	1・2後		2							兼1		
		山梨の自然と文化・産業	1・2前		2		1					兼1		
		富士山と環境	1・2後		2		1					兼1		
		生活健康学	1・2前		2		1					兼1		
		スポーツの理論と実際	1・2前・後		1							兼1		
小計(21科目)	-	-	8	22	0	8	0	5	4	0	兼23			
総合基礎科目領域	人間基礎科目群	健康科学論	1通	1			2	1		1		兼4		
		発達心理学	1後		2							兼1		
		人間関係論	1前	1								兼1		
		コミュニケーション論	1・2後		1							兼1		
		世界の福祉	1・2前		2							兼1		
		点字の理論と実際	1・2前		2							兼1		
		手話の理論と実際	1・2前		2							兼1		
		異文化比較論	1・2前		1		1					兼2		
		共生学	1・2後		1				1			兼1		
		世界と対話	2通		2							兼1		
		地域連携の理論と実際	1・2後		2		1					兼1		
		ボランティア活動の実際	1・2通		1							兼1		
		リハビリテーション特別講義Ⅰ	1・2後		1		1		1			兼1		
		リハビリテーション特別講義Ⅱ	1・2後		1		1		1			兼1		
人間基礎科目群 小計(14科目)	-	-	2	18	0	6	1	2	1	0	兼18			
総合基礎科目領域	外国語科目群	英語Ⅰ-1	1前	1								兼2		
		英語Ⅰ-2	1後	1								兼2		
		英語Ⅱ-1	2前	1								兼2		
		英語Ⅱ-2	2後	1								兼2		
		英語リーディング・ライティング	1・2後		1							兼1		
		英語コミュニケーション	1・2前		1							兼1		
		英語会話	1・2前・後		1							兼1		
		基礎韓国語	1・2前		1		1					兼1		
		基礎中国語	1・2前		1		1					兼1		
		はじめての韓国語会話	1・2後		1		1					兼1		
		はじめての中国語会話	1・2後		1		1					兼1		
外国語科目群 小計(11科目)	-	-	4	7	0	4	0	0	0	0	兼11			
総合基礎科目領域 小計(46科目)	-	-	14	47	0	18	1	7	5	0	兼52			
専門基礎科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1前	2		2						兼1		
		解剖学Ⅱ	1後	2		2						兼1		
		解剖学演習	1・2・3・4後	1		2		1				兼1		
		解剖学実習	1前	1		3						兼1		
		生理学	1前	2		1	1					兼1		
		生理学演習	1後	2		1	1					兼1		
		生理学実習	2前	1		1	1					兼1		
		運動学Ⅰ	1前	2				1				兼1		
		運動学Ⅱ	1後	2					1			兼1		
		運動学実習	2前	1				2	4			兼1		
		人間発達学	1後	2			1					兼1		
		病理学	1後	1		1						兼1		
		薬学	2後	1								兼1		
		栄養学	2後	2			1					兼1		
		公衆衛生学	1・2前		1							兼1		
		バイオメカニクス	2後	2					1			兼1		
		微生物学・免疫学	2・3後	2		1						兼1		
		基礎医学系 小計(17科目)	-	-	21	6	0	17	0	3	4	0	兼3	
		専門基礎科目領域	臨床医学系	臨床医学総論	2前	1								兼1
				整形外科学	2前	2		1						兼1
				神経内科学	2前	2		1						兼1
小児科学	2前			1								兼1		
内科学	2後			2		1		</						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手	
専門基礎科目群	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2								兼1
	社会理論と社会システム	1-2前	2								兼1
	社会保障論Ⅰ	1-2後	2								兼1
	就労支援サービス	2前	2								兼1
	精神保健学Ⅰ	2-3前	2								兼1
	精神保健学Ⅱ	2-3後	2								兼1
	高齢者福祉	2-3後	2								兼1
	介護福祉	2-3後	2								兼1
	障害者福祉	2-3後	2								兼1
	福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	0	0	0	0	0	0
臨床人間学系	臨床心理学	2前	2								兼1
	神経心理学	2後	2								兼1
	児童青年心理学	2-3前	2								兼1
	障害者心理学	2-3後	2								兼1
	社会心理学	2-3後	2								兼1
	臨床人間学スタディーズ	2-3前	2							1	兼3
	臨床社会学スタディーズ	2-3後	2								兼3
	ジェンダースタディーズ	2-3前	1		1						兼3
	コミュニケーションスタディーズ	2-3後	1		1						兼3
	チーム医療演習	4後	1		2		2				兼4
臨床人間学系 小計(10科目)	—	1	16	0	3	0	1	2	0	0	兼19
専門基礎科目群 小計(43科目)	—	35	38	0	23	3	5	9	0	0	兼34
専門科目領域	理学療法概論	1前	2			1					
	理学療法演習Ⅰ-1	1前	1			2	1	2	5		
	理学療法演習Ⅰ-2	1後	1			2	1	2	5		
	運動解剖学	2前	2			1					
	臨床運動学	2後	2			1	1				
	理学療法研究法	3前	1					2			
	卒業研究	4通	4			6	2	3	9		
	理学療法管理学	3前	2			1					
	理学療法評価学	2前	2					1	1		
	理学療法評価学実習	2後	1					1	3		
	理学療法演習Ⅱ-1	2前	1		3			2	5		
	理学療法演習Ⅱ-2	2後	1		3			2	5		
	運動器系理学療法評価学演習	2後	1		1		1				
	神経系理学療法評価学演習	2後	1		1		1				
	内部障害系理学療法評価学演習	2後	1		1		3				
	クリニカルリズニング	2後	1		1		1	2			
	理学療法治療学	2後	2		1						
	運動療法学	2後	2				1	2			
	理学療法演習Ⅲ	3後	1			2	1	1	4		
	運動器系理学療法実習	3前	1		1						
	神経系理学療法実習	3前	1		1						
	内部障害系理学療法実習	3前	1					3			
	日常生活活動学	2後	2				1				
	日常生活活動学実習	3前	1					2			
	義肢装具学	2後	2				1	1			
	義肢装具学実習	3前	1				1	2			
	物理療法学	3前	2		1		1	2			
	小児理学療法学	3前	2		1						兼1
	理学療法演習Ⅳ	4通	1		1	1	1	5			
	理学療法特論	4後	2		6	1	1	3			
	マニュアルセラピー	3前	2		1						
	地域生活支援学	3前	2					1			
	高次脳機能障害治療学	3前	2		1						
	スポーツリハビリテーション学	4後	2		1						
	スポーツ医学	4後	1		1						兼1
	地域理学療法学	2後	2		1						
	予防理学療法学	3前	1		2			2			
	見学実習	1通	1		2	1	2	5			
	地域理学療法学実習	2通	1		2	1	2	5			
	検査測定実習	2後	1		2	1	2	5			
	評価実習	3後	6		2	1	2	5			
	総合臨床実習	4通	11		2	1	2	5			
専門科目群 小計(42科目)	—	64	13	0	52	19	32	94	0	0	兼1
専門科目領域 小計(85科目)	—	99	51	0	75	22	37	103	0	0	兼35
合計(131科目)	—	113	98	0	93	24	43	110	0	0	兼38
卒業要件及び履修方法											
本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間)) <理学療法学コース> 総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上) 専門基礎科目105単位以上(必修35単位および選択必修1単位、 専門科目(必修63単位および自由選択5単位以上)											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手	
専門基礎科目群	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2								兼1
	社会理論と社会システム	1-2前	2								兼1
	社会保障論Ⅰ	1-2後	2								兼1
	就労支援サービス	2前	2								兼1
	精神保健学Ⅰ	2-3前	2								兼1
	精神保健学Ⅱ	2-3後	2								兼1
	高齢者福祉	2-3後	2								兼1
	介護福祉	2-3後	2								兼1
	障害者福祉	2-3後	2								兼1
	福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	0	0	0	0	0	0
臨床人間学系	臨床心理学	2前	2								兼1
	神経心理学	2後	2								兼1
	児童青年心理学	2-3前	2								兼1
	障害者心理学	2-3後	2								兼1
	社会心理学	2-3後	2								兼1
	臨床人間学スタディーズ	2-3前	2							1	兼2
	臨床社会学スタディーズ	2-3後	2								兼3
	ジェンダースタディーズ	2-3前	1		1			1			兼3
	コミュニケーションスタディーズ	2-3後	1		1			2			兼3
	チーム医療演習	4後	1		2		2				兼4
臨床人間学系 小計(10科目)	—	1	16	0	3	0	3	1	0	0	兼18
専門基礎科目群 小計(43科目)	—	35	38	0	22	0	6	5	0	0	兼35
専門科目領域	理学療法概論	1前	2			1					
	理学療法演習Ⅰ-1	1前	1			4	1	3	3		
	理学療法演習Ⅰ-2	1後	1			4	1	3	3		
	運動解剖学	2前	2				1				
	臨床運動学	2後	2			1	1				
	理学療法研究法	3前	1					2			
	卒業研究	4通	4			6	1	3	4		
	理学療法管理学	3前	2			1					
	理学療法評価学	2前	2					1	2		
	理学療法評価学実習	2後	1					2	3		
	理学療法演習Ⅱ-1	2前	1		2		1	3	4		
	理学療法演習Ⅱ-2	2後	1		2		1	3	4		
	運動器系理学療法評価学演習	2後	1		1		1	2			
	神経系理学療法評価学演習	2後	1		1		1		1		
	内部障害系理学療法評価学演習	2後	1		1		3				
	クリニカルリズニング	2後	1		1		1	2			
	理学療法治療学	2後	2		1						
	運動療法学	2後	2				1	2			
	理学療法演習Ⅲ	3後	1			2	1	3	3		
	運動器系理学療法実習	3前	1		1		1	1			
	神経系理学療法実習	3前	1		1						
	内部障害系理学療法実習	3前	1					1	3		
	日常生活活動学	2後	2				1				
	日常生活活動学実習	3前	1					1			
	義肢装具学	2後	2				1	1			
	義肢装具学実習	3前	1				1	1			
	物理療法学	3前	2		1		1	2			
	小児理学療法学	3前	2		1						兼1
	理学療法演習Ⅳ	4通	1		1	1	1	5			
	理学療法特論	4後	2		6	1	1	3			
	マニュアルセラピー	3前	2		1						
	地域生活支援学	3前	2					1			
	高次脳機能障害治療学	3前	2		1						
	スポーツリハビリテーション学	4後	2		1				1		
	スポーツ医学	4後	1		1						兼1
	地域理学療法学	2後	2		1						
	予防理学療法学	3前	1		2			1	1		
	見学実習	1通	1		2	1	3	4			
	地域理学療法学実習	2通	1		2	1	3	4			
	検査測定実習	2後	1		2	1	3	4			
	評価実習	3後	6		2	1	3	4			
	総合臨床実習	4通	11		2	1	3	4			
専門科目群 小計(42科目)	—	64	13	0	55	18	59	67	0	0	兼2
専門科目領域 小計(85科目)	—	99	51	0	77	18	65	72	0	0	兼37
合計(131科目)	—	113	98	0	95	19	72	77	0	0	兼39
卒業要件及び履修方法											
本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間)) <理学療法学コース> 総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上) 専門基礎科目105単位以上(必修35単位および選択必修1単位、 専門科目(必修63単位および自由選択5単位以上)											

(注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度未時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については科目名右側に「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「※」、「臨地実務実習」による授業科目には「臨」、
「連携実務演習」による授業科目には「連」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・ 指定規則の改正により、新カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例: 記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

【令和5年度】

- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「基礎演習Ⅰ」の教員配置を「教授2、准教授1、助教4、兼任3」から「教授2、准教授1、講師2、助教2、兼任2」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「基礎演習Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1、助教5、兼任3」から「教授1、准教授1、講師2、助教3、兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「教育原理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「経済と経営」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「現代医療史」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「宗教学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「現代社会と倫理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「情報リテラシー」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「統計学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「スポーツの理論と実際」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「健康科学論」の教員配置を「教授3、助教1、兼任3」から「教授2、助教2、兼任4」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「人間関係論」の教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「異文化比較論」の教員配置を「教授2、助教1、兼任1」から「教授1、兼任3」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「地域連携の理論と実際」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の職位変更により、「リハビリテーション特別講義Ⅰ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の職位変更により、「リハビリテーション特別講義Ⅱ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅰ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅰ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅱ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅱ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語リーディング・ライティング」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語コミュニケーション」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「人間発達学」の教員配置を「教授2、兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「解剖学Ⅰ」の教員配置を「教授2」から「教授1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「解剖学Ⅱ」の教員配置を「教授2」から「教授1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の職位変更により、「解剖学演習」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授2、講師1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「運動学Ⅰ」の教員配置を「助教2」から「助教1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「運動学Ⅱ」の教員配置を「助教2」から「助教1、兼任1」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「人間発達学」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授1、助教1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「整形外科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「神経内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「リハビリテーション医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「臨床人間学スタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「臨床社会学スタディーズ」の教員配置を「教授1、兼任2」から「兼任3」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「ジェンダースタディーズ」の教員配置を「兼任3」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「コミュニケーションスタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「チーム医療演習」の教員配置を「教授1」から「教授2、助教2、兼任4」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅰ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅰ-2」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職により、「理学療法研究法」の教員配置を「助教1」から「助教2」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「卒業研究」の教員配置を「教授9、准教授2、講師1、助教12」から「教授6、准教授2、講師3、助教9」に変更。
 - ・担当教員の採用により、「理学療法評価学」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教1」に変更。
 - ・担当教員の採用により、「理学療法評価学実習」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教3」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授3、准教授1、講師2、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授3、准教授1、講師2、助教5」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「神経系理学療法評価学演習」の教員配置を「教授2」から「教授1、助教1」に変更。
 - ・担当教員の職位変更により、「クリニカルリズニング」の教員配置を「教授1、助教2」から「教授1、講師1、助教1」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「神経系理学療法評価学演習」の教員配置を「教授1、助教2」から「教授1、助教1」に変更。
 - ・担当教員の採用により、「運動療法学」の教員配置を「助教1」から「講師1、助教2」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅲ」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師1、助教4」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「内部障害系理学療法学実習」の教員配置を「助教2」から「助教3」に変更。
 - ・担当教員の職位変更により、「日常生活活動学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
 - ・担当教員の退職、職位変更により、「義肢装具学」の教員配置を「助教1」から「講師1、助教1」に変更。
 - ・担当教員の職位変更により、「義肢装具学実習」の教員配置を「助教3」から「講師1、助教2」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用により、「物理療法学」の教員配置を「助教3」から「教授1、講師1、助教2」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「小児理学療法学」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅳ」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授1、准教授1、講師1、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法特論」の教員配置を「教授5、准教授1、助教7」から「教授6、准教授1、講師1、助教3」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「スポーツ医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「予防理学療法学」の教員配置を「教授1」から「教授2、助教2」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「見学実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「地域理学療法実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「検査測定実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「評価実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「総合臨床実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
- ・【届出時】表について、専門科目領域の専門科目群に係る科目の小計に誤記があり、科目数を「35科目」から「42科目」に訂正。
- ・【届出時】表について、専門科目領域に係る科目の小計に誤記があり、科目数を「84科目」から「85科目」に訂正。
- ・【届出時】表について、総合基礎科目領域及び専門科目領域に係る科目の合計に誤記があり、科目数を「130科目」から「131科目」に訂正。
- ・【届出時】表における訂正に伴い、【令和5年度】表の専門科目領域の専門科目群に係る小計科目数を「35科目」から「42科目」に訂正。
- ・【届出時】表における訂正に伴い、【令和5年度】表の専門科目領域の小計科目数を「84科目」から「85科目」に訂正。
- ・【届出時】表における訂正に伴い、【令和5年度】表の全科目数の合計を「130科目」から「131科目」に訂正。

【令和6年度】

- ・担当教員の退職、採用により、「基礎演習Ⅰ」の教員配置を「教授2、准教授1、助教4、兼任3」から「教授2、講師2、助教2、兼任2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用により、「基礎演習Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1、助教5、兼任3」から「教授1、講師3、助教2、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「教育原理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「経済と経営」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「宗教学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「現代社会と倫理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「情報リテラシー」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「化学基礎」の教員配置を「兼任1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「統計学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間学」の教員配置を「教授1、兼任1」から「兼任2、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「富士山と環境」の教員配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「生活健康学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「スポーツの理論と実際」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「健康科学論」の教員配置を「教授3、助教1、兼任3」から「教授2、准教授1、助教1、兼任4」に変更。
- ・専門性の深化のため、「異文化比較論」の教員配置を「教授2、助教1、兼任1」から「教授1、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域連携の理論と実際」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅰ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅱ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語リーディング・ライティング」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語コミュニケーション」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語会話」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「解剖学Ⅱ」の教員配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「解剖学演習」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授2、講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅰ」の教員配置を「助教2」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅱ」の教員配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学実習」の教員配置を「助教7」から「講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間発達学」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「栄養学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「神経内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「社会理論と社会システム」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床社会学スタディーズ」の教員配置を「教授1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「ジェンダースタディーズ」の教員配置を「兼任3」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「コミュニケーションスタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「チーム医療演習」の教員配置を「教授1」から「教授2、講師2、兼任4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅰ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授4、准教授1、講師3、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅰ-2」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授4、准教授1、講師3、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「卒業研究」の教員配置を「教授3、准教授2、講師1、助教12」から「教授6、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の採用により、「理学療法評価学」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教2」に変更。
- ・担当教員の採用により、「理学療法評価学実習」の教員配置を「助教2」から「講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅱ-2」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「運動器系理学療法評価学演習」の教員配置を「教授1、准教授1、助教1」から「教授1、准教授1、講師2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「神経系理学療法評価学演習」の教員配置を「教授1、助教2」から「教授1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「内部障害系理学療法評価学演習」の教員配置を「助教3」から「講師1、助教2」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「クリニカルリズニング」の教員配置を「教授1、助教2」から「教授1、講師2」に変更。
- ・担当教員の退職、職位変更により、「運動療法学」の教員配置を「助教1」から「講師2、助教2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅲ」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動器系理学療法学実習」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授1、准教授1、講師1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用により、「内部障害系理学療法学実習」の教員配置を、「助教2」から「講師1、助教3」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「日常生活活動学実習」の教員配置を「助教2」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用により、「義肢装具学」の教員配置を「助教1」から「講師1、助教1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用により、「義肢装具学実習」の教員配置を「助教3」から「講師1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「物理療法学」の教員配置を「助教3」から「教授1、講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「小児理学療法学」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅳ」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授4、准教授1、講師3、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法特論」の教員配置を「教授5、准教授1、助教7」から「教授5、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「地域生活支援学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「スポーツリハビリテーション学」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、講師1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「予防理学療法学」の教員配置を「教授1」から「教授2、講師1、助教1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「見学実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「地域理学療法学実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「検査測定実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「評価実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「総合臨床実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「クリニカルリズニング」の配当年次と配当学期を「2年次・後期」から「3年次・後期」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「理学療法治療学」の配当年次と配当学期を「2年次・前期」から「3年次・前期」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「運動療法学」の配当年次と配当学期を「2年次・前期」から「3年次・前期」に変更。
- ・【届出時】表における訂正に伴い、【令和5年度】表の専門科目領域の専門科目群に係る小計科目数を「35科目」から「42科目」に訂正。
- ・【届出時】表における訂正に伴い、【令和5年度】表の専門科目領域の小計科目数を「84科目」から「85科目」に訂正。
- ・【届出時】表における訂正に伴い、【令和5年度】表の全科目数の合計を「130科目」から「131科目」に訂正。

【令和7年度】

- ・担当教員の退職、配置転換により、「基礎演習Ⅰ」の教員配置を「教授2、准教授1、助教4、兼任3」から「教授2、講師2、助教2、兼任2」に変更。
- ・担当教員の退職、配置転換により、「基礎演習Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1、助教5、兼任3」から「教授2、講師3、助教1、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「教育原理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「経済と経営」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「現代医療史」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「宗教学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「現代社会と倫理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「情報リテラシー」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「化学基礎」の教員配置を「兼任1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「統計学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間学」の教員配置を「教授1、兼任1」から「教授1、兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「生活健康学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・令和7年度より日本語（国語）の発信力を鍛える学習を提供するため、「日本語表現法」を新設し「兼任1」を教員配置する。
【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・専門性の深化のため、「スポーツの理論と実際」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「健康科学論」の教員配置を「教授3、助教1、兼任3」から「教授2、准教授1、助教1、兼任4」に変更。
- ・専門性の深化のため、「異文化比較論」の教員配置を「教授2、助教1、兼任1」から「教授1、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域連携の理論と実際」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「ボランティア活動の実際」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅰ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅱ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語 リーディング・ライティング」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・英語教育を再編するため、令和7年度より「英語 コミュニケーション」を削除。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・語学教育および外国語教育に関する科目体系の理解を容易にするため、「英会話」を「英会話」に科目名称を変更。
教員配置は「助教1」から「兼任2」に変更。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・語学教育および外国語教育に関する教育課程の再編により、「基礎韓国語」を削除。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・語学教育および外国語教育に関する教育課程の再編により、「基礎中国語」を削除。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・語学教育および外国語教育に関する教育課程の再編により、「はじめての韓国語会話」を削除。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・語学教育および外国語教育に関する教育課程の再編により、「はじめての中国語会話」を削除。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・発信力を鍛える語学教育、外国語教育の充実のため、「英語 リーディング・ライティング(advanced)」を新設し「兼任1」を教員配置。
発信力を鍛える語学教育、外国語教育の充実のため、「英会話(advanced)」を新設し「兼任1」を教員配置。
- ・専門性の深化のため、「解剖学Ⅱ」の教員配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「生理学」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「生理学演習」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「生理学実習」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授1、講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅰ」の教員配置を「助教2」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅱ」の教員配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学実習」の教員配置を「助教7」から「講師1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間発達学」の教員配置を「教授2、助教1」から「助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「栄養学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「整形外科」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「神経内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「リハビリテーション医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「社会理論と社会システム」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「社会保障論Ⅰ」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床人間学スタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「講師1、助教1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床社会学スタディーズ」の教員配置を「教授1、兼任2」から「教授1、講師1、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「ジェンダースタディーズ」の教員配置を「兼任3」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「コミュニケーションスタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「チーム医療演習」の教員配置を「教授1」から「教授2、講師2、兼任4」に変更。
- ・専門性の深化のため、「理学療法演習Ⅰ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「理学療法演習Ⅰ-2」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「卒業研究」の教員配置を「教授9、准教授2、講師1、助教12」から「教授6、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「理学療法評価学」の教員配置を「助教2」から「教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「理学療法評価学実習」の教員配置を「助教2」から「教授2、講師2、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「理学療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「理学療法演習Ⅱ-2」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動器系理学療法評価学演習」の教員配置を「教授1、准教授1、助教1」から「准教授1、講師2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「神経系理学療法評価学演習」の教員配置を「教授1、助教2」から「教授1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「内部障害系理学療法評価学演習」の教員配置を「助教3」から「講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「クリニカルリズニング」の教員配置を、「教授1、助教2」から「教授3、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動療法学」の教員配置を「助教1」から「講師2、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「理学療法演習Ⅲ」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授3、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動器系理学療法実習」の教員配置を「教授1、准教授1」から「准教授1、講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「内部障害系理学療法実習」の教員配置を、「助教2」から「講師1、助教1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「日常生活活動学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「日常生活活動学実習」の教員配置を「助教2」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「義肢装具学」の教員配置を「助教1」から「講師1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「義肢装具学実習」の教員配置を「助教3」から「講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「物理療法学」の教員配置を「助教3」から「教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「小児理学療法学」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「理学療法演習Ⅳ」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授3、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「理学療法特論」の教員配置を「教授5、准教授1、助教7」から「教授3、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域生活支援学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「スポーツリハビリテーション学」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「スポーツ医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「予防理学療法学」の教員配置を「教授1」から「教授2、講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「見学実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域理学療法学実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授3、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「検査測定実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授3、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「評価実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「総合臨床実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教2」に変更。
- ・総合基礎科目目録/共通基礎科目群の科目変更に伴い、科目小計数を「21科目」から「22科目」に変更。
- ・総合基礎科目目録/外国語科目群の科目変更に伴い、科目小計数を「11科目」から「9科目」に変更。
- ・総合基礎科目目録/外国語科目群の科目変更に伴い、総合基礎科目領域の科目小計数を「46科目」から「44科目」に変更。
- ・総合基礎科目領域における科目変更および【届出時】の表の訂正に伴い、全科目領域の科目合計数を「131科目」から「129科目」に変更。

(注) 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・変更内容は、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
・指定規則の改正により、新旧がキレムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
71 科目	60 科目	- 科目	131 科目	71 科目 [0]	59 科目 [Δ1]	- 科目 [0]	130 科目 [Δ1]	

- (注)・未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)
 ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	山梨の自然と文化・産業	2	1・2	一般	選択	山梨県知事が認定する「やまなし観光カレッジ修了事業」が終了となり開講が困難なため未開講とした。代替措置は、同じ総合基礎科目領域/共通基礎科目群に属する他の科目で単位数を修得できるため代替措置は行わない。なお、履修上の影響はない。

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。
なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	英語 コミュニケーション	1	1・2	一般	選択	英語教育を再編するため廃止
2	基礎韓国語	1	1・2	一般	選択	英語教育を重点的に行うことを目的とし、学習時間の効率化を図るため廃止
3	基礎中国語	1	1・2	一般	選択	英語教育を重点的に行うことを目的とし、学習時間の効率化を図るため廃止
4	はじめての韓国語会話	1	1・2	一般	選択	英語教育を重点的に行うことを目的とし、学習時間の効率化を図るため廃止
5	はじめての中国語会話	1	1・2	一般	選択	英語教育を重点的に行うことを目的とし、学習時間の効率化を図るため廃止

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。
なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<ul style="list-style-type: none"> ・大学の所見：未開講および廃止となる科目は一般科目であり、同じ科目領域/科目群に属する他の科目で卒業に必要な単位数を修得できるため履修上の影響はない。 ・学生への周知方法：履修指導により周知した。

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{6}{131} = \boxed{4.58} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
				必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手			
専門基礎科目群	福祉学系	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2									兼1	
		社会理論と社会システム	1-2前	2		1								兼1
		社会保障論Ⅰ	1-2後	2		1								兼1
		就労支援サービス	2前	2										兼1
		精神保健学Ⅰ	2-3前	2										兼1
		精神保健学Ⅱ	2-3後	2										兼1
		高齢者福祉	2-3後	2										兼1
		介護福祉	2-3後	2										兼1
		障害者福祉	2-3後	2										兼1
		福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	2	0	0	0	0	0	0	兼8
専門基礎科目群	臨床人間学系	臨床心理学	2前	2									兼1	
		神経心理学	2後	2									兼1	
		児童青年心理学	2-3前	2									兼1	
		障害者心理学	2-3後	2									兼1	
		社会心理学	2-3後	2									兼1	
		臨床人間学スタディーズ	2-3前	2						1			兼2	
		臨床社会学スタディーズ	2-3後	2		1							兼2	
		ジェンダースタディーズ	2-3前	1									兼3	
		コミュニケーションスタディーズ	2-3後	1						1			兼2	
		チーム医療演習	4後	1		1								兼1
臨床人間学系 小計(10科目)	—	3	14	0	2	0	0	2	0	0	0	兼13		
専門基礎科目群 小計(42科目)	—	37	34	0	20	3	0	15	0	0	0	兼33		
専門科目領域	専門科目群	作業療法概論	1前	2		2			3					
		基礎作業学	1後	2					1					
		作業療法演習Ⅰ-1	2前	1		3		1	5					
		研究法概論	2後	1			1		2					
		基礎作業学演習	3後	1					2					
		卒業研究	4通	4		9	2	1	12					
		作業療法管理学	3後	2					1					
		作業療法評価学	1後	2		1			2					
		身体作業療法評価学演習	2前	2					2					
		精神作業療法評価学演習	2前	2		1			1					
		発達作業療法評価学演習	2後	1					1					
		日常生活評価学演習	2後	1				1						
		作業療法演習Ⅰ-2	2後	1		3		1	5					
		身体障害作業療法治療学	2後	2		1								
		精神障害作業療法治療学	2後	2		1								
		老年期作業療法学	3前	2				1						
		発達障害作業療法治療学演習	3前	1					1					
		高次脳機能障害治療学	3前	2		1								
		身体障害作業療法治療学演習	3前	2		1			1					
		精神障害作業療法治療学演習	3前	2		1			1					
		日常生活活動学演習	3前	1				1						
		作業療法演習Ⅱ-1	3前	1		3		1	5					
		作業療法演習Ⅱ-2	3後	1		3		1	5					
		義肢装具学	3後	2					2					
		作業療法学特論	4後	1		3		1	5					
		スポーツ医学	3後	1									兼1	
		スポーツリハビリテーション学	4後	2		1			1					
		マニュアルセラピー	3前	2			1							
地域生活支援学	3前	2					1							
地域作業療法学	3前	2					1							
生活環境学演習	3後	1					1							
臨床実習Ⅰ(見学実習)	1後	1		3		1	5							
臨床実習Ⅱ(地域実習)	3後	1		3		1	5							
臨床実習Ⅲ(評価実習)	3後	5		3		1	5							
臨床実習Ⅳ(総合実習)	4前	9		3		1	5							
臨床実習Ⅴ(総合実習)	4通	9		3		1	5							
専門科目群 小計(36科目)	—	66	10	0	49	4	15	83	0	0	0			
専門科目領域 小計(78科目)	—	103	44	0	69	7	15	98	0	0	0	兼1		
合計(124科目)	—	117	91	0	94	9	15	118	0	0	0	兼73		
卒業要件及び履修方法														
本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))														
<作業療法学コース> 総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上) 専門基礎科目105単位以上(必修37単位および選択必修1単位、 専門科目(必修66単位および自由選択1単位以上)														

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
				必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手		
専門基礎科目群	福祉学系	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2									兼1
		社会理論と社会システム	1-2前	2									兼1
		社会保障論Ⅰ	1-2後	2									兼1
		就労支援サービス	2前	2									兼1
		精神保健学Ⅰ	2-3前	2									兼1
		精神保健学Ⅱ	2-3後	2									兼1
		高齢者福祉	2-3後	2									兼1
		介護福祉	2-3後	2									兼1
		障害者福祉	2-3後	2									兼1
		福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0
専門基礎科目群	臨床人間学系	臨床心理学	2前	2									兼1
		神経心理学	2後	2									兼1
		児童青年心理学	2-3前	2									兼1
		障害者心理学	2-3後	2									兼1
		社会心理学	2-3後	2									兼1
		臨床人間学スタディーズ	2-3前	2						1	1		兼1
		臨床社会学スタディーズ	2-3後	2		1			1				兼2
		ジェンダースタディーズ	2-3前	1				1		1			兼1
		コミュニケーションスタディーズ	2-3後	1					1				兼3
		チーム医療演習	4後	1				2		2			兼4
臨床人間学系 小計(10科目)	—	3	14	0	4	0	5	1	0	0	0	兼16	
専門基礎科目群 小計(42科目)	—	37	34	0	24	0	9	6	0	0	0	兼30	
専門科目領域	専門科目群	作業療法概論	1前	2		1	1	1	2				兼1
		基礎作業学	1後	2				1					兼1
		作業療法演習Ⅰ-1	2前	1		3		1	1	2			
		研究法概論	2後	1			1		2				
		基礎作業学演習	3後	1				1					
		卒業研究	4通	4		9	2	1	12				
		作業療法管理学	3後	2					1				
		作業療法評価学	1後	2		1			2				
		身体作業療法評価学演習	2前	2					2				
		精神作業療法評価学演習	2前	2		1			1				兼1
		発達作業療法評価学演習	2後	1					1				
		日常生活評価学演習	2後	1				1					
		作業療法演習Ⅰ-2	2後	1		3		1	5				兼1
		身体障害作業療法治療学	2後	2		1							
		精神障害作業療法治療学	2後	2		1							兼1
		老年期作業療法学	3前	2				1					
		発達障害作業療法治療学演習	3前	1					1				
		高次脳機能障害治療学	3前	2		1							
		身体障害作業療法治療学演習	3前	2		1			1				兼2
		精神障害作業療法治療学演習	3前	2		1			1				兼2
		日常生活活動学演習	3前	1				1					
		作業療法演習Ⅱ-1	3前	1		3		1	5				兼1
		作業療法演習Ⅱ-2	3後	1		3		1	5				兼1
		義肢装具学	3後	2					2				兼2
		作業療法学特論	4後	1		3		1	5				兼1
		スポーツ医学	3後	1									兼1
		スポーツリハビリテーション学	4後	2		1			1				
		マニュアルセラピー	3前	2			1						
地域生活支援学	3前	2					1						
地域作業療法学	3前	2					1						
生活環境学演習	3後	1					1						
臨床実習Ⅰ(見学実習)	1後	1		3		1	5						
臨床実習Ⅱ(地域実習)	3後	1		3		1	5						
臨床実習Ⅲ(評価実習)	3後	5		3		1	5						
臨床実習Ⅳ(総合実習)	4前	9		3		1	5						
臨床実習Ⅴ(総合実習)	4通	9		3		1	5						
専門科目群 小計(36科目)	—	66	10	0	29	18	26	32	0	0	0	兼10	
専門科目領域 小計(84科目)	—	103	44	0	53	18	35	38	0	0	0	兼40	
合計(122科目)	—	117	89	0	68	18	41	40	0	0	0	兼92	
卒業要件及び履修方法													
本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))													
<作業療法学コース> 総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上) 専門基礎科目105単位以上(必修37単位および選択必修1単位、 専門科目(必修66単位および自由選択1単位以上)													

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1		2	1	2	2		兼2		
		基礎演習Ⅱ	1後	1		1	1	2	3		兼2		
		人権と法	1-2前		2						兼1		
		教育原理	1-2前		2						兼1		
		経済と経営	1-2後		2						兼1		
		現代医療史	1-2前		1		1				兼1		
		宗教学	1-2後		1						兼1		
		現代社会と倫理	1-2前		1						兼1		
		情報リテラシー	1前	1							兼1		
		基礎数学演習	1前	1							兼1		
		物理基礎	1前	1							兼1		
		化学基礎	1前	1							兼1		
		統計学	1後	2							兼1		
		心理学と心理的支援(心理学概論)	1-2前		2						兼1		
		人間学	1-2前		1		1				兼2		
		生命学	1-2後		1						兼2		
		比較行動学	1-2後		2						兼1		
		山梨の自然と文化・産業	1-2前		2		1						
		富士山と環境	1-2後		2		1						
		生活健康学	1-2前		2		1						
		スポーツの理論と実際	1-2前・後		1						兼1		
		小計(21科目)	-	-	8	22	0	8	2	4	5	0	兼20
		総合基礎科目領域	人間基礎科目群	健康科学論	1通	1				2			兼4
				発達心理学	1後		2						兼1
				人間関係論	1前	1							兼2
				コミュニケーション論	1-2後		1						兼1
世界の福祉	1-2前				2						兼1		
点字の理論と実際	1-2前				2						兼1		
手話の理論と実際	1-2前				2						兼1		
異文化比較論	1-2前				1		1				兼3		
共生学	1-2後				1						兼1		
世界と対話	2通				2						兼1		
地域連携の理論と実際	1-2後				2		1				兼1		
ボランティア活動の実際	1-2通				1						兼1		
リハビリテーション特別講義Ⅰ	1-2後				1		1		1		兼1		
リハビリテーション特別講義Ⅱ	1-2後				1		1		1		兼1		
人間基礎科目群 小計(14科目)	-	-	2	18	0	6	0	2	2	0	兼20		
総合基礎科目領域	外国語科目群	英語Ⅰ-1	1前	1							兼2		
		英語Ⅰ-2	1後	1							兼2		
		英語Ⅱ-1	2前	1							兼2		
		英語Ⅱ-2	2後	1							兼2		
		英語 リーディング・ライティング	1-2後		1						兼1		
		英語 コミュニケーション	1-2前		1						兼1		
		英語 会話	1-2前・後		1						兼1		
		基礎韓国語	1-2前		1		1						
		基礎中国語	1-2前		1		1						
		はじめての韓国語会話	1-2後		1		1						
		はじめての中国語会話	1-2後		1		1						
		外国語科目群 小計(11科目)	-	-	4	7	0	4	0	0	0	0	兼11
総合基礎科目領域 小計(46科目)	-	-	14	47	0	18	2	6	7	0	兼51		
専門科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1前	2		2							
		解剖学Ⅱ	1後	2		2							
		解剖学演習	1-2-3-4後		1		2		1				
		解剖学実習	1前	1		3							
		生理学	1前	2		1	1						
		生理学演習	1後	2		1	1						
		生理学実習	2前	1		1	1						
		運動学Ⅰ	1後	2				1	1		兼1		
		運動学Ⅱ	2前	2				1	1		兼1		
		運動学実習	2前	1				2	4				
		人間発達学	2前	2		1			1				
		病理学	1後	1		1					兼1		
		薬学	2後	1									
		薬学	2後	2		1							
		公衆衛生学	1-2前		1						兼1		
		微生物学・免疫学	2-3後		2		1						
	基礎医学系 小計(16科目)	-	-	21	4	0	16	3	4	7	0	兼4	
	臨床医学系	臨床医学総論	2前	1							兼1		
		整形外科	2前	2		1							
		神経内科学	2前	2		1							
小児科学		2前	1							兼1			
内科学		2後	2		1								
精神医学	2前	2							兼1				
リハビリテーション医学	2後	1		1									
臨床医学系 小計(7科目)	-	-	11	0	0	4	0	0	0	0	兼3		

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1		2					兼2			
		基礎演習Ⅱ	1後	1		1		2	2		兼2			
		人権と法	1-2前		2						兼1			
		教育原理	1-2前		2						兼1			
		経済と経営	1-2後		2						兼1			
		現代医療史	1-2前		1						兼1			
		宗教学	1-2後		1						兼1			
		現代社会と倫理	1-2前		1						兼1			
		情報リテラシー	1前	1							兼1			
		基礎数学演習	1前	1							兼1			
		物理基礎	1前	1							兼1			
		化学基礎	1前	1					1		兼1			
		統計学	1後	2							兼1			
		心理学と心理的支援(心理学概論)	1-2前		2						兼1			
		人間学	1-2前		1						兼3			
		生命学	1-2後		1						兼2			
		比較行動学	1-2後		2						兼1			
		山梨の自然と文化・産業	1-2前		2		1							
		富士山と環境	1-2後		2		2		2					
		生活健康学	1-2前		2		1							
		スポーツの理論と実際	1-2前・後		1						兼1			
		小計(21科目)	-	-	8	22	0	8	0	5	4	0	兼23	
		総合基礎科目領域	人間基礎科目群	健康科学論	1通	1				2	1		1	兼4
				発達心理学	1後		2							兼1
				人間関係論	1前	1								兼1
				コミュニケーション論	1-2後		1							兼1
世界の福祉	1-2前				2							兼1		
点字の理論と実際	1-2前				2							兼1		
手話の理論と実際	1-2前				2							兼1		
異文化比較論	1-2前				1		1					兼2		
共生学	1-2後				1							兼1		
世界と対話	2通				2							兼1		
地域連携の理論と実際	1-2後				2		1					兼1		
ボランティア活動の実際	1-2通				1							兼1		
リハビリテーション特別講義Ⅰ	1-2後				1		1		1			兼1		
リハビリテーション特別講義Ⅱ	1-2後				1		1		1			兼1		
人間基礎科目群 小計(14科目)	-	-	2	18	0	6	1	2	1	0	兼18			
総合基礎科目領域	外国語科目群	英語Ⅰ-1	1前	1							兼2			
		英語Ⅰ-2	1後	1							兼2			
		英語Ⅱ-1	2前	1							兼2			
		英語Ⅱ-2	2後	1							兼2			
		英語 リーディング・ライティング	1-2後		1						兼1			
		英語 コミュニケーション	1-2前		1						兼1			
		英語 会話	1-2前・後		1						兼1			
		基礎韓国語	1-2前		1		1							
		基礎中国語	1-2前		1		1							
		はじめての韓国語会話	1-2後		1		1							
		はじめての中国語会話	1-2後		1		1							
		外国語科目群 小計(11科目)	-	-	4	7	0	4	0	0	0	0	兼11	
総合基礎科目領域 小計(46科目)	-	-	14	47	0	18	1	7	5	0	兼52			
専門科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1前	2		2								
		解剖学Ⅱ	1後	2		2					3			
		解剖学演習	1-2-3-4後		1		2		1					
		解剖学実習	1前	1		3					3			
		生理学	1前	2		1	1				1			
		生理学演習	1後	2		1	1				1			
		生理学実習	2前	1		1	1				1			
		運動学Ⅰ	1後	2				1	1					
		運動学Ⅱ	2前	2				1	1					
		運動学実習	2前	1				2	4					
		人間発達学	2前	2		1			1					
		病理学	1後	1		1					1			
		薬学	2後	1										
		薬学	2後	2		1								
		公衆衛生学	1-2前		1									
		微生物学・免疫学	2-3後		2		1							
	基礎医学系 小計(16科目)	-	-	21	4	0	16	0	3	3	0	兼3		
	臨床医学系	臨床医学総論	2前	1							兼1			
		整形外科	2前	2							兼1			
		神経内科学	2前	2					1					
小児科学		2前	1							兼1				
内科学		2後	2		1									
精神医学	2前	2							兼1					
リハビリテーション医学	2後	1		1										
臨床医学系 小計(7科目)	-	-	11	0	0	2	0	0	0	0	兼5			

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数				専任教員等の配置				兼任・兼任		
				必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手			
専門基礎科目群	福祉学系	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2									兼1	
		社会理論と社会システム	1-2前	2										兼1
		社会保障論Ⅰ	1-2後	2										兼1
		就労支援サービス	2前	2										兼1
		精神保健学Ⅰ	2-3前	2										兼1
		精神保健学Ⅱ	2-3後	2										兼1
		高齢者福祉	2-3後	2										兼1
		介護福祉	2-3後	2										兼1
		障害者福祉	2-3後	2										兼1
		福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専門基礎科目群	臨床人間学系	臨床心理学	2前	2										兼1
		神経心理学	2後	2										兼1
		児童青年心理学	2-3前	2										兼1
		障害者心理学	2-3後	2										兼1
		社会心理学	2-3後	2										兼1
		臨床人間学スタディーズ	2-3前	2										兼3
		臨床社会学スタディーズ	2-3後	2										兼3
		ジェンダースタディーズ	2-3前	1		1		1						兼1
		コミュニケーションスタディーズ	2-3後	1		1		1						兼3
		チーム医療演習	4後	1		2		2						兼4
臨床人間学系 小計(10科目)	—	1	16	0	3	0	1	2	0	0	0	0	兼19	
専門基礎科目群 小計(42科目)	—	35	36	0	23	3	5	9	0	0	0	0	兼34	
専門科目領域	専門科目群	作業療法概論	1前	2		1	1	3						
		基礎作業学	1後	2			1							
		作業療法演習Ⅰ-1	2前	1		2	2	3						
		研究法概論	2後	1			1							
		基礎作業学演習	3後	1			1	1						兼1
		卒業研究	4通	4		6	2	3	9					
		作業療法管理学	3後	2				2						
		作業療法評価学	1後	2				1						
		身体作業療法評価学演習	2前	2					2					
		精神作業療法評価学演習	2前	2										兼1
		発達作業療法評価学演習	2後	1						1				
		日常生活評価学演習	2後	1						1				
		作業療法演習Ⅰ-2	2後	1		2		2	3					
		身体障害作業療法治療学	2後	2			1							
		精神障害作業療法治療学	2後	2										兼1
		老年期作業療法学	3前	2					1					
		発達障害作業療法治療学演習	3前	1						1				
		高次脳機能障害治療学	3前	2			1							
		身体障害作業療法治療学演習	3前	2			1							兼2
		精神障害作業療法治療学演習	3前	2					2					兼1
		日常生活活動学演習	3前	1					1					
		作業療法演習Ⅱ-1	3前	1		2		2	3					
		作業療法演習Ⅱ-2	3後	1		2		2	3					
		義肢装具学	3後	2					2					
		作業療法学特論	4後	1		2		2	3					
		スポーツ医学	3後	1		1								兼1
		スポーツリハビリテーション学	4後	2		1								
		マニュアルセラピー	3前	2			1							
		地域生活支援学	3前	2										1
		地域作業療法学	3前	2										1
生活環境学演習	3後	1										1		
臨床実習Ⅰ(見学実習)	1後	1		2		2	5					3		
臨床実習Ⅱ(地域実習)	3後	1		2		2	5					3		
臨床実習Ⅲ(評価実習)	3後	5		2		2	5					3		
臨床実習Ⅳ(総合実習)	4前	9		2		2	5					3		
臨床実習Ⅴ(総合実習)	4通	9		2		2	5					3		
専門科目群 小計(36科目)	—	66	10	0	32	4	30	66	0	0	0	0	兼4	
専門科目領域 小計(84科目)	—	101	46	0	55	7	35	75	0	0	0	0	兼38	
合計(124科目)	—	115	93	0	73	9	41	82	0	0	0	0	兼90	

卒業要件及び履修方法

本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))

<作業療法学コース>

総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上)

専門基礎科目105単位以上(必修37単位および選択必修1単位)

専門科目(必修66単位および自由選択1単位以上)

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数				専任教員等の配置				兼任・兼任		
				必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手			
専門基礎科目群	福祉学系	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2										兼1
		社会理論と社会システム	1-2前	2										兼1
		社会保障論Ⅰ	1-2後	2										兼1
		就労支援サービス	2前	2										兼1
		精神保健学Ⅰ	2-3前	2										兼1
		精神保健学Ⅱ	2-3後	2										兼1
		高齢者福祉	2-3後	2										兼1
		介護福祉	2-3後	2										兼1
		障害者福祉	2-3後	2										兼1
		福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専門基礎科目群	臨床人間学系	臨床心理学	2前	2										兼1
		神経心理学	2後	2										兼1
		児童青年心理学	2-3前	2										兼1
		障害者心理学	2-3後	2										兼1
		社会心理学	2-3後	2										兼1
		臨床人間学スタディーズ	2-3前	2										兼3
		臨床社会学スタディーズ	2-3後	2										兼3
		ジェンダースタディーズ	2-3前	1		1		1						兼1
		コミュニケーションスタディーズ	2-3後	1		1		1						兼3
		チーム医療演習	4後	1		2		2						兼4
臨床人間学系 小計(10科目)	—	1	16	0	3	0	3	1	0	0	0	0	兼18	
専門基礎科目群 小計(42科目)	—	35	36	0	21	0	6	4	0	0	0	0	兼35	
専門科目領域	専門科目群	作業療法概論	1前	2		1	1	3						
		基礎作業学	1後	2			1							
		作業療法演習Ⅰ-1	2前	1		2	1	2	3					
		研究法概論	2後	1			1							
		基礎作業学演習	3後	1			1	1						
		卒業研究	4通	4		6	2	3	9					
		作業療法管理学	3後	2				2						
		作業療法評価学	1後	2				1						
		身体作業療法評価学演習	2前	2					2					
		精神作業療法評価学演習	2前	2						1	1			兼1
		発達作業療法評価学演習	2後	1								1		
		日常生活評価学演習	2後	1							1			
		作業療法演習Ⅰ-2	2後	1		2		2	3					
		身体障害作業療法治療学	2後	2			1							
		精神障害作業療法治療学	2後	2										兼1
		老年期作業療法学	3前	2					1					
		発達障害作業療法治療学演習	3前	1						1				
		高次脳機能障害治療学	3前	2			1							
		身体障害作業療法治療学演習	3前	2			1							兼2
		精神障害作業療法治療学演習	3前	2					2					兼1
		日常生活活動学演習	3前	1					1					
		作業療法演習Ⅱ-1	3前	1		2		2	3					
		作業療法演習Ⅱ-2	3後	1		2		2	3					
		義肢装具学	3後	2					2					
		作業療法学特論	4後	1		2		2	3					
		スポーツ医学	3後	1		1								兼1
		スポーツリハビリテーション学	4後	2		1								
		マニュアルセラピー	3前	2			1							
		地域生活支援学	3前	2										1
		地域作業療法学	3前	2										1
生活環境学演習	3後	1										1		
臨床実習Ⅰ(見学実習)	1後	1		2		2	5					3		
臨床実習Ⅱ(地域実習)	3後	1		2		2	5					3		
臨床実習Ⅲ(評価実習)	3後	5		2		2	5					3		
臨床実習Ⅳ(総合実習)	4前	9		2		2	5					3		
臨床実習Ⅴ(総合実習)	4通	9		2		2	5					3		
専門科目群 小計(36科目)	—	66	10	0	29	18	32	48	0	0	0	0	兼5	
専門科目領域 小計(84科目)	—	101	46	0	50	18	38	52	0	0	0	0	兼40	
合計(124科目)	—	115	93	0	68	19	45	57	0	0	0	0	兼92	

卒業要件及び履修方法

本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))

<作業療法学コース>

総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上)

専門基礎科目105単位以上(必修37単位および選択必修1単位)

専門科目(必修66単位および自由選択1単位以上)

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、

【令和5年度】

- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「基礎演習Ⅰ」の教員配置を「教授2、准教授1、助教4、兼任3」から「教授2、准教授1、講師2、助教2、兼任2」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「基礎演習Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1、助教5、兼任3」から「教授1、准教授1、講師2、助教3、兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「教育原理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「経済と経営」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「現代医療史」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「宗教学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「現代社会と倫理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「情報リテラシー」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「統計学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「スポーツの理論と実際」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「健康科学論」の教員配置を「教授3、助教1、兼任3」から「教授2、助教2、兼任4」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「人間関係論」の教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「異文化比較論」の教員配置を「教授2、助教1、兼任1」から「教授1、兼任3」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「地域連携の理論と実際」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の職位変更により、「リハビリテーション特別講義Ⅰ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の職位変更により、「リハビリテーション特別講義Ⅱ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅰ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅰ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅱ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅱ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語リーディング・ライティング」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「英語コミュニケーション」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「人間発達学」の教員配置を「教授2、兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「解剖学Ⅰ」の教員配置を「教授2」から「教授1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「解剖学Ⅱ」の教員配置を「教授2」から「教授1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の職位変更により、「解剖学演習」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授2、講師1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「運動学Ⅰ」の教員配置を「助教2」から「助教1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「運動学Ⅱ」の教員配置を「助教2」から「助教1、兼任1」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「人間発達学」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授1、助教1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「整形外科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「神経内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「リハビリテーション医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「臨床人間学スタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「臨床社会学スタディーズ」の教員配置を「教授1、兼任2」から「兼任3」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「ジェンダースタディーズ」の教員配置を「兼任3」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「コミュニケーションスタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「チーム医療演習」の教員配置を「教授1」から「教授2、助教2、兼任4」に変更。
 - ・担当教員の退職により、「作業療法概論」の教員配置を「教授2、助教3」から「教授1、講師1、助教3」に変更。
 - ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅰ-1」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教3」に変更。
 - ・担当教員の職位変更、配置転換により、「基礎作業療法学演習」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教1、兼任1」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「卒業研究」の教員配置を「教授9、准教授2、講師1、助教12」から「教授6、准教授2、講師3、助教9」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「作業療法管理学」の教員配置を「助教1」から「助教2」に変更。
 - ・担当教員の退職により、「精神作業療法評価学演習」の教員配置を「教授1、助教1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅰ-2」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教3」に変更。
 - ・担当教員の退職により、「精神障害作業療法治療学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・専門性の深化のため、「身体障害作業療法治療学演習」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、助教2」に変更。
 - ・担当教員の退職により、「精神障害作業療法治療学演習」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
 - ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教3」に変更。
 - ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅱ-2」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教3」に変更。
 - ・担当教員の退職により、「作業療法特論」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教3」に変更。
 - ・担当教員の配置転換により、「スポーツ医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「臨床実習Ⅰ（見学実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「臨床実習Ⅱ（地域実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「臨床実習Ⅲ（評価実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「臨床実習Ⅳ（総合実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教5」に変更。
 - ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「臨床実習Ⅴ（総合実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教5」に変更。
- ・【届出時】表について、専門科目領域の専門科目群に係る科目の小計に誤記があり、科目数を「30科目」から「36科目」に訂正。
・【届出時】表における訂正に伴い、【令和5年度】表の専門科目領域の専門科目群に係る小計科目数を「30科目」から「36科目」に訂正

【令和6年度】

- ・担当教員の退職、採用により、「基礎演習Ⅰ」の教員配置を「教授2、准教授1、助教4、兼任3」から「教授2、講師2、助教2、兼任2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用により、「基礎演習Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1、助教5、兼任3」から「教授1、講師3、助教2、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「教育原理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「経済と経営」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「宗教学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「現代社会と倫理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「情報リテラシー」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「化学基礎」の教員配置を「兼任1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「統計学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間学」の教員配置を「教授1、兼任1」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「富士山と環境」の教員配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「生活健康学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「スポーツの理論と実際」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「健康科学論」の教員配置を「教授3、助教1、兼任3」から「教授2、准教授1、助教1、兼任4」に変更。
- ・専門性の深化のため、「異文化比較論」の教員配置を「教授2、助教1、兼任1」から「教授1、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域連携の理論と実際」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅰ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅱ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語リーディング・ライティング」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語コミュニケーション」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語会話」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「解剖学Ⅱ」の教員配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「解剖学演習」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授2、講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅰ」の教員配置を「助教2」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅱ」の教員配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学実習」の教員配置を「助教7」から「講師1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間発達学」の教員配置を「教授2、助教1」から「助教1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「栄養学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「神経内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「社会学と社会システム」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床社会学スタディーズ」の教員配置を「教授1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「ジェンダースタディーズ」の教員配置を「兼任3」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「コミュニケーションスタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「チーム医療演習」の教員配置を「教授1」から「教授2、講師2、兼任4」に変更。
- ・担当教員の退職、職位変更により、「作業療法概論」の教員配置を「教授2、助教3」から「教授1、准教授1、講師1、助教3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「基礎作業学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「研究法概論」の教員配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「基礎作業療法演習」の教員配置を「助教2」から「准教授1、助教2」に変更。
- ・担当教員の退職、職位変更により、「卒業研究」の教員配置を「教授9、准教授2、講師1、助教12」から「教授2、准教授1、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法管理学」の教員配置を「助教1」から「講師1、助教1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「身体作業療法評価学演習」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教2」に変更。
- ・担当教員の退職により、「精神作業療法評価学演習」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、准教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「日常生活評価学演習」の教員配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅰ-2」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「精神障害作業療法治療学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「老年期作業療法学」の教員配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「身体障害作業療法治療学演習」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「精神障害作業療法治療学演習」の教員配置を「教授1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅱ-2」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法特論」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「スポーツリハビリテーション学」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、講師1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「地域生活支援学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「地域作業療法学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「臨床実習Ⅰ（見学実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職により、「臨床実習Ⅱ（地域実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職により、「臨床実習Ⅲ（評価実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職により、「臨床実習Ⅳ（総合実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職により、「臨床実習Ⅴ（総合実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教4」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「内科学」の配当年次と配当学期を「2年次・後期」から「2年次・前期」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「人間発達学」の配当年次と配当学期を「2年次・前期」から「1年次・後期」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「運動学Ⅰ」の配当年次と配当学期を「1年次・後期」から「1年次・前期」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「運動学Ⅱ」の配当年次と配当学期を「2年次・前期」から「1年次・後期」に変更。

- ・【届出時】表について、専門科目領域の専門科目群に係る科目の小計に誤記があり、科目数を「30科目」から「36科目」に訂正。
- ・【届出時】表における訂正に伴い、【令和6年度】表の専門科目領域の専門科目群に係る小計科目数を「30科目」から「36科目」に訂正。

【令和7年度】

- ・担当教員の退職、配置転換により、「基礎演習Ⅰ」の教員配置を「教授2、准教授1、助教4、兼任3」から「教授2、講師2、助教2、兼任2」に変更。
- ・担当教員の退職、配置転換により、「基礎演習Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1、助教5、兼任3」から「教授2、講師3、助教1、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「教育原理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「経済と経営」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「現代医療史」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「宗教学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「現代社会と倫理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「情報リテラシー」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「化学基礎」の教員配置を「兼任1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「統計学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間学」の教員配置を「教授1、兼任1」から「教授1、兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「生活健康学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・令和7年度より日本語（国語）の発信力を鍛える学習を提供するため、「日本語表現法」を新設し「兼任1」を教員配置する。
【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・専門性の深化のため、「スポーツの理論と実際」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「健康科学論」の教員配置を「教授3、助教1、兼任3」から「教授2、准教授1、助教1、兼任4」に変更。
- ・専門性の深化のため、「異文化比較論」の教員配置を「教授2、助教1、兼任1」から「教授1、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域連携の理論と実際」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「ボランティア活動の実際」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅰ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅱ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語リーディング・ライティング」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・英語教育を再編するため、令和7年度より「英語 コミュニケーション」を削除。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・語学教育および外国語教育に関する科目体系の理解を容易にするため、「英語 会話」を「英会話」に科目名称を変更。教員配置は「助教1」から「兼任2」に変更。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・語学教育および外国語教育に関する教育課程の再編により、「基礎韓国語」を削除。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・語学教育および外国語教育に関する教育課程の再編により、「基礎中国語」を削除。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・語学教育および外国語教育に関する教育課程の再編により、「はじめての韓国語会話」を削除。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・語学教育および外国語教育に関する教育課程の再編により、「はじめての中国語会話」を削除。【令和6年11月25日付で学則変更届出済み】
- ・発信力を鍛える語学教育、外国語教育の充実のため、「英語リーディング・ライティング(advanced)」を新設し「兼任1」を教員配置。発信力を鍛える語学教育、外国語教育の充実のため、「英会話(advanced)」を新設し「兼任1」を教員配置。
- ・専門性の深化のため、「解剖学Ⅱ」の教員配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「生理学」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「生理学演習」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「生理学実習」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授1、講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅰ」の教員配置を「助教2」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅱ」の教員配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学実習」の教員配置を「助教7」から「講師1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間発達学」の教員配置を「教授2、助教1」から「助教1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「栄養学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「神経内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「リハビリテーション医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「社会理論と社会システム」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「社会保障論Ⅰ」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床人間学スタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「講師1、助教1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床社会学スタディーズ」の教員配置を「教授1、兼任2」から「教授1、講師1、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「ジェンダースタディーズ」の教員配置を「兼任3」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「コミュニケーションスタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「チーム医療演習」の教員配置を「教授1」から「教授2、講師2、兼任4」に変更。
- ・専門性の深化のため、「作業療法概論」の教員配置を「教授2、助教3」から「教授1、准教授1、講師1、助教2、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「基礎作業学」の教員配置を「助教1」から「講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「作業療法演習Ⅰ-1」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「研究法概論」の教員配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「基礎作業療法演習」の教員配置を「助教2」から「准教授1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「卒業研究」の教員配置を「教授9、准教授2、講師1、助教12」から「教授2、准教授1、講師2、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「作業療法評価学」の教員配置を「教授1、講師1、助教2」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「身体作業療法評価学演習」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「精神作業療法評価学演習」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、准教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「日常生活評価学演習」の教員配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「作業療法演習Ⅰ-2」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「精神障害作業療法治療学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「老年期作業療法学」の教員配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「身体障害作業療法治療学演習」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「精神障害作業療法治療学演習」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「日常生活活動学演習」の教員配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「作業療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授1、准教授1、講師2、助教2、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「作業療法演習Ⅱ-2」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教2、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「義肢装具学」の教員配置を「助教2」から「助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「作業療法特論」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授1、准教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「スポーツ医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「スポーツリハビリテーション学」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域生活支援学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域作業療法学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「生活環境学演習」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床実習Ⅰ（見学実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床実習Ⅱ（地域実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床実習Ⅲ（評価実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床実習Ⅳ（総合実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床実習Ⅴ（総合実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教2」に変更。
- ・総合基礎科目領/共通基礎科目群の科目変更に伴い、科目小計数を「21科目」から「22科目」に変更。
- ・総合基礎科目領/外国語科目群の科目変更に伴い、科目小計数を「11科目」から「9科目」に変更。
- ・総合基礎科目領/外国語科目群の科目変更に伴い、総合基礎科目領域の科目小計数を「46科目」から「44科目」に変更。
- ・【届出時】表における訂正に伴い、【令和6年度】表の専門科目領域の専門科目群に係る小計科目数を「30科目」から「36科目」に訂正。
- ・総合基礎科目領域における科目変更および【届出時】の表の訂正に伴い、全科目領域の科目合計数を「124科目」から「122科目」に変更。

(注)・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
67 科目	57 科目	- 科目	124 科目	67 科目 [0]	56 科目 [Δ1]	- 科目 []	123 科目 [Δ1]	

- (注)・未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)
 ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	山梨の自然と文化・産業	2	1・2	一般	選択	山梨県知事が認定する「やまなし観光カレッジ修了事業」が終了となり開講が困難なため未開講とした。代替措置は、同じ総合基礎科目領域/共通基礎科目群に属する他の科目で単位数を修得できるため代替措置は行わない。なお、履修上の影響はない。

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。
なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	英語 コミュニケーション	1	1・2	一般	選択	英語教育を再編するため廃止
2	基礎韓国語	1	1・2	一般	選択	英語教育を重点的に行うことを目的とし、学習時間の効率化を図るため廃止
3	基礎中国語	1	1・2	一般	選択	英語教育を重点的に行うことを目的とし、学習時間の効率化を図るため廃止
4	はじめての韓国語会話	1	1・2	一般	選択	英語教育を重点的に行うことを目的とし、学習時間の効率化を図るため廃止
5	はじめての中国語会話	1	1・2	一般	選択	英語教育を重点的に行うことを目的とし、学習時間の効率化を図るため廃止

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。
なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<ul style="list-style-type: none"> ・大学の所見：未開講および廃止となる科目は一般科目であり、同じ科目領域/科目群に属する他の科目で卒業に必要な単位数を修得できるため履修上の影響はない。 ・学生への周知方法：履修指導により周知した。

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{6}{124} = \boxed{4.83} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	75,674.91 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	75,674.91 m ²			
	運動場用地	0.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²			
	小 計	75,674.91 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	75,674.91 m ²			
	そ の 他	13,733.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	13,733.00 m ²			
	合 計	89,407.91 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	89,407.91 m ²			
(2) 校 舎	専 用	18,494.34 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	18,494.34 m ²			
	(18,494.34 m ²)	(0.00 m ²)	(0.00 m ²)	(0.00 m ²)	(18,494.34 m ²)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	12 室	14 室	7 室	2 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	健康科学部 リハビリテーション学科			40 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部全体でカウント。 ※学術雑誌について、 過去に購読や寄贈で受 け入れていたバックナ ンバー34種(2種)を 含んでいる。 ※電子ジャーナルにつ いて、「メディカルオ ンライン」配信サービ スを契約し、収録され ているタイトルを含ん でいる。 図書等の新規受入並び に廃業のため(6)
	健康科学部	38,726 [2,589] (39,536 [2,590]) (40,404 [2,594]) 41,251 [2,595]	70 [3] (32 [3]) (30 [3]) (29 [3])	1,580 [1] (1,623 [1]) (1,648 [1]) (1,693 [1])	1,881 (1,883) (1,922)	2,099 (1,930)	90 (91)	
	計	38,726 [2,589] (39,536 [2,590]) (40,404 [2,594]) 41,251 [2,595]	70 [3] (32 [3]) (30 [3]) (29 [3])	1,580 [1] (1,623 [1]) (1,648 [1]) (1,819 [1])	1,881 (1,883) (1,922)	2,099 (1,930)	90 (91)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	1,255.9 m ²		118 席		30,000 冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	m ²							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人当り研究費等	100千円	100千円	図書購入費	千円	2,580 千円	2,580 千円
	共 同 研 究 費 等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	千円	1,516 千円	1,349 千円	
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		1,600千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	- 千円	- 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金、寄付金					

- (注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号 (その 1 の 1) に準じて作成してください。
 (複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び
 「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。)
 ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
 ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、
 その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延) がある場合には、「建築等設置計画変更書」
 を併せて提出してください。
 ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	健康科学大学							収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	2
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
健康科学部	年	人	年次	人		倍	倍	年度	年度		
リハビリテーション学科	4	180	3年次 5	850	-	0.50	-	-	平成15	-	
理学療法学科	4	120	0	360	-	0.70	-	-	令和5	山梨県南都留郡富士河口湖町小町7187	
作業療法学科	4	80	0	240	学士(理学療法)	0.70	-	-	令和5	同上	
理学療法学科	4	40	0	120	学士(作業療法)	0.60	-	-	令和5	同上	
理学療法学科	4	80	-	160	学士(理学療法)	-	-	-	平成15	同上	令和5年度入学生より学生募集停止
作業療法学科	4	40	-	80	学士(作業療法)	-	-	-	平成15	同上	令和5年度入学生より学生募集停止
人間コミュニケーション学科	4	60	3年次 5	250	学士(福祉心理学)	0.50	-	-	平成15	同上	
福祉心理学科	4	60	3年次 5	250	学士(福祉心理学)	-	-	-	平成15	同上	令和3年度より学科名称変更
看護学部	4	80	0	320	-	0.70	-	-	平成28	-	
看護学科	4	80	0	320	学士(看護)	0.70	-	-	平成28	山梨県都留市四日市場909-2	
大学全体	4	260	3年次 10	1,170	-	0.60	-	-	-	-	

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。
 詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
届 出 時 (令和4年)	特になし 【届出】 遵守事項		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	特になし 【届出】 遵守事項		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和6年度)	教育内容の充実等を通じ、収容定員未充足の改善に努めること。 (健康科学部リハビリテーション学科) 【AC】 指摘事項 (改善)	令和6年度の入学状況を受けて、学生募集委員会で学生募集の方法等について見直しを行った。結果として、令和7年度は理学療法学コースが入学定員に迫る入学者数を確保したが、作業療法学コースは十分な結果とはなっていない。引き続き、学生募集のあり方を見直し、入学者確保に向けて収容定員未充足の改善に努めていく。(7)	高校生に対し積極的な広報活動(募集媒体、リーフレット、WEB、高校訪問、オープンキャンパス、ガイダンス)等のPR活動の強化を図り、入試方法の見直しを行うことで、入学定員未充足の改善を図っていく。(7)

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)(7)」と記載してください。

【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康科学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし。	

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

健康科学大学に設置する各学部にFD委員会を設置している。

当該委員会は、授業の内容及び教育方法の改善と向上を目的とし、運営会議、各学部教授会のほか他委員会と連携を取りながら学部内におけるFD活動の推進を図っている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

<令和5年度出席状況>

4月19日（6名出席）、11月4日（3名出席）、3月25日（4名出席）

c 委員会の審議事項等

授業の内容及び教育方法の改善と向上を図るための組織的な取り組みとして、FDに係る企画及び実施に関する事項、情報収集及び分析に関する事項を審議する。

② 実施状況

a 実施内容

- ・FD研修会の実施
- ・教員相互の授業参観

b 実施方法

- ・FD研修会（Microsoft Teamsを利用したオンライン形式、対面とリモートのハイブリッド形式）
- ・教員相互の授業参観（対面、Microsoft Teamsを利用したリモート）

c 開催状況（教員の参加状況含む）

<FD研修会>

- ・「教員による相互授業参観の実施に係る説明会」
対象：全教員 方法：講義形式（オンライン）
参加者数：健康科学部専任教員20名、看護学部は映像アーカイブによる情報共有
- ・「- 今時の学生に対する教員のかかわり方（LGBTQ、多様性、ハラスメント、医療と福祉業界）-」
対象：全教員 方法：講義形式（オンライン）
参加者数：健康科学部専任教員20名、看護学部17名。映像アーカイブにて情報共有
- ・「- 相互授業参観を通じた授業改善と情報共有の深化 - ～相互授業参観で見つける授業改善のヒント～」
対象：全教員 方法：講義、ワークショップ形式（対面とリモートのハイブリッド形式）
参加者数：健康科学部専任教員17名、看護学部10名。映像アーカイブにて情報共有

<教員相互の授業参観>

- ・健康科学部と看護学部の学部毎に実施（科目担当教員が任意で参観科目を指定）
対象：全教員（専任教員、兼任：非常勤講師） 方法：登校授業または遠隔授業を参観

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・有（前期と後期の各1回）

b 教員や学生への公開状況、方法等

結果について、各授業担当者に公開するとともに、各授業担当者はアンケート結果に基づいて「考察」を作成し、学内及び大学ホームページにて閲覧・開示している。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

「該当なし」

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

「該当なし」

c 委員会の審議事項等

「該当なし」

d その他

「該当なし」

② 審議状況

a 審議した内容

「該当なし」

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

「該当なし」

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

「該当なし」

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

- ・我が国では少子高齢化や後期高齢者の増加、グローバル化を始めとする急激な社会の変化に伴い、これからの医療・福祉のあり方が社会的な検討課題になっている。健康科学大学(以下「本学」という。)は、このような社会のニーズに応えるため、「豊かな人間力」、「専門的な知識・技術力」、「開かれた共創力」の3つを兼ね備えた人材の育成を建学の精神として設置した。
- ・令和6年3月の「令和5年度大学機関別認証評価報告書(公益財団法人日本高等教育評価機構)」による評価結果では、使命・目的及び教育目的については、学則、ホームページ、大学案内等に具体的かつ簡潔に明文化しており、個性・特色についてもそれらに明示するとともに、入学式の学長式辞や理事長告辞等にて学内外に周知している。また、理事会等を通じて役員、教職員の理解を得ており、社会情勢等への対応あるいは必要に応じた見直し等も行っている。使命・目的等については、中期計画である「学校法人健康科学大学経営計画」及び三つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に反映し、それらを達成するために必要な学部・学科等の教育研究組織を整備していると評価され、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・令和6年度の報告書は大学ホームページ上に公開している。
- ・令和7年度に関しては令和8年3月に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和12年に評価機関(日本高等教育評価機構)の評価を受審する。

(注)・設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和7年度)

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [()]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。